

## ■ 勿来高等学校長 木村 敏明 「3年生が卒業しました。」

平成31年3月1日（金）、本校の第66回卒業証書授与式を挙行いたしました。在校生の力強い歌声と来賓各位の温かい眼差し、保護者の皆様の深い愛情に見守られ、三年生47名が元気に卒業してきました。今年の卒業生達は、普段から元気が良く、あいさつなども積極的でした。おかげで学校全体が明るい雰囲気でした。エネルギーが余っていたのか、体育祭などの行事では大変活発に取り組んでいました。いい意味で下級生達を引っ張っていったらと思っています。このことは、在校生の送辞や卒業生代表答辞にも書かれており、伝統というのはこうやって積み重ねられていくのだなと実感しました。とはいえ、卒業したといってもまだまだ成人前のひよっこです。地域の皆さまの支えはこれからも必要と思いますので、ご指導ご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。いずれ成長した後は、勿来窪田の地に恩返ししてくれるものと信じております。

また、3月4日（月）には、いわき支援学校くぼた校の第3期生が卒業しました。こちら立派な卒

【いわき支援くぼた校卒業生】



業式でした。一人一人が担任からの呼名に元気よく答え、卒業証書をしっかり受け取り、高らかな歌声と共に学び舎を巣立ちました。先生方も生徒達が昇降口を出るまで、花吹雪や声援などで力一杯盛り立てていただきました。保護者も目頭を熱くしている様子でした。

この二つの卒業式に参加して思うことは、卒業式の重さとは思い出の量であり、感動の強さはもがき苦しんだ過去からの克服の数であり、それら貴重な経験をリアルに共有することが共感を生み、何気ないことにも意義や自己の存在を確認できるのだなということです。本校が長年取り組んできた、ボランティアや共生プログラムが思春期後半の生徒達の心と態度を豊かに育むために、いかに有効であったか実感しています。

最後に、毎年思うことですが、卒業式は本来生徒の成長と門出を祝うものなのですが、私達教師にとっても、寄り添った時間と成果の確認であり、なによりそれを通して「教師にさせてもらえた」ことが実感できる瞬間であり、感謝の気持ちしかありません。

【勿来高校卒業証書授与式】

